

# やさしむらの はやがってん



文・絵 土屋富士夫

# やさしむらのはやがってん

文・絵 土屋富士夫



女子/わが口自

やさしむらの きつねさんが  
そらを みあげて いいました。  
「なんて いい おてんきなんだろう。  
そうだ！」





「やねの ペンキぬりを しよう」  
やねに のぼると とても いい ながめ。  
「わあー、みんなの うちも よく みえる」  
きつねさんは おもわず てを ふりました。  
「おーい みんな、こっち こっち」

りすさんが それに きが つきました。  
「あら、きつねさんが わたしを よんでるわ。  
いっしょに あそぼうって。  
やねの うえって たのしいのよね」





りすさんは おやつを リュックに つめこむと  
いそいそと でした。

「きつねさんの だいすきな  
やきたての クッキー、  
もって いくわよ」



ぶたさんも きつねさんに きが つきました。  
「あっ、きつねさんが やねの うえで  
ぼくの こと よんで いる。  
きっと めずらしい もの みつけたんだ」





「ほくも はやく みたいなあ」

ぶたさんは じまんの カメラを もって  
うきうきと でかけて きました。

